

巻頭言集

今、みなさんに伝えたい事

2022





学年通信とは



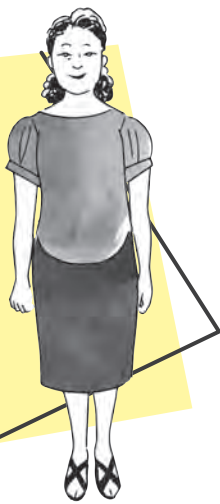
吉祥では、学年通信を学年ごとに発行しています。発行時期は、年度始めや終わり、長期休暇に入る前、行事の前後などさまざまです。学年通信では、生徒達の学校生活における活躍の様子、写真や感想、学級日誌の生徒コメント、またその時々に必要な情報を提供しています。また、学年通信の巻頭言集では、学年主任がそれぞれの時期に、それぞれの学年の生徒達へのメッセージを載せています。

この巻頭言集は、2020～2021年度学年通信の中から一部を抜粋したものです。



2021.07

1学期を 終えるに あたって



中1学年主任 山家 菊世

4月7日の入学式からスタートした1学期が、まもなく終わろうとしています。みなさんにとって吉祥で過ごした最初の学期は、いかがでしたか。6月16日に実施した「小学校・中学校生活についてのアンケート」の項目の1つに、「吉祥女子中学校に来てよかったと思いますか」というものがありました。当日数名の欠席者はいたものの、アンケートに答えてくれたみなさんの中で「思わない」を選んだ人は1人もいませんでした。この結果を見て、私はほっとするとともに嬉しく思いました。新しい環境に慣れるのはたいへんなことですが、みなさんはそれぞれ努力を重ね、吉祥で居場所をみつけれられたのです。これは、たいへん大きな1歩だといえます。

振り返ってみると、4月は何もかもが初めて尽くしで、中学校生活に慣れるのに必死だったと思います。5月には、みなさんの楽しみの1つである部・クラブの所属が決まりましたが、緊急事態宣言等の影響で活動ができなくなってしまい、残念に思った人がいたと思います。また、初めての定期考査を経験し、学習に対する思いを新たにされた人もいたことでしょう。そして、例年に近い形で学習や部・クラブ活動に取り組むことができた6月は、球

中学1年生

技大会や吉祥祭に向けた準備が加わり、大忙しだったことと思います。先日行われた初めての球技大会は、いかがでしたか。異例のテレビ画面を通しての応援……。選手のみなさんは、会場に担任の先生やクラスメイトの姿がなく、心細かったことと思います。上級生の壁を破ることはできませんでしたが、クラスメイトと力を合わせて果敢に立ち向かっていく姿や競技を終えて会場から戻ってくるクラスメイトを教室の外まで出て拍手で迎える姿、運動クラブの一員として競技の進行のサポートをする姿など、私の記憶にはしっかりと刻まれました。さまざまなことがあった1学期、それぞれの場でよくがんばりましたね。

さて、入学から2ヶ月ほどたった6月上旬の現代文の授業で、お互いをもっとよく知るために好きなことを通してクラスメイトに改めて自分を紹介する機会として「私のお気に入りのOO」というスピーチを行いました。その中で、おじい様とおばあ様と過ごしたかけがえのない時間について「光陰矢の如し」という言葉をひいて「毎日毎日が速いと思うのはすごく楽しかったからだと思います」と熱く語ってくれた人がいました。みなさんにとってスタートしたばかりの吉祥での生活は、思うようにいかなかったことももちろんあったと思います。これから学期を積み重ねていく中で、この吉祥が1人1人にとって居心地のよい場所となり、巣立っていくときに「光陰矢の如し」と感じられるよう、支援していきたくと思っています。力になれることがあれば、遠慮なく声をかけてください。

明日から43日間の長い夏休みが始まります。体調に気をつけつつ、有意義な時間を過ごしてください。9月1日の2学期の始業式の日、またみなさんと元気に会えるのを楽しみにしています。



中学2年生

12月16日、特別時間割の1時限目、中2一同が体育館に集結しました。入学以来、コロナ禍の中で学校生活を送ってきた私たちは、様々な制限がある中でもLHRの時間などに、クラス単位では運動をしたりゲームを企画したりしてきました。しかし、学年全体となると、難しい問題がいくつもあって、実現出来ずにここまで来てしまいました。

9月のある日、中2の生徒会役員会のメンバー3人が、連名で「企画書」と題されたプリント1枚を持って突然職員室の私の所をたずねて来ました。内容は、是非とも中2全体での学年行事を実現したい、規制下の諸条件を踏まえて、可能な範囲で最大限楽しめる企画を立てたい、という提案でした。君たちからの学年全体で楽しみたい、というストレートな要望を受けて、安全を最優先するあまり、全体行事にどうしても慎重でいた私は、自分の消極性を本当に反省させられました。その場では、必ずして出来るだけ早く実現しようと応答し、その後の学年教員の会議で何度か話し合いをしました。感染状況も少し好転状況が見られた10月後半、ようやく学校生活がレベル1に引き下げられたこともあって、諸行事で出来ることの範囲も少しずつ広がってきました。そこで、12月の定期考査終了後なら可能なのではないかと、日程を絞り込み、再び提案者である役員会のメンバーに話しを戻しました。以後、各クラスのHR委員にも声を掛け、クラス毎に話し合った成果を吸収しながら、何度か会議を開いて計画を少しずつ具体化させていき、当日を迎えることになりました。

度々行われる学年集会でも、定刻には集合を完了していることが多い学年ですが、16日は朝礼の数分後には体育館に移動してきたクラスもあり、8:40には学年全体が綺麗に整列して点呼を終えていました。学年集会の時には見られないようなわくわく感に満ちた笑顔と張り切りようには少し複雑な思いを持ちつつも、君たちを頼もしく思えた瞬間でした。

「借り人競走」企画は役員会とHR委員を中心に細部まで入念に準備してくれていたこともあって、ゲーム・採点・表彰まで時間内でスムーズに進んで行きました。全力で走りながらゲームを楽しんでいる君たちの姿を見ると、コロナ禍の状況を恨めしく思いつつ、こういう機会をもっともっと早く実現してあげられなかったことを本当に申し訳なく思いました。

そして、この日の中で、一番私を驚かせ感動させたのは、閉会式の展開でした。今回は企画から運営まで生徒主体で進めて来ましたので、閉会までは君たちの進行に任せておこうと考えていました。そして、全て終了した

2021.12

驚かされた 学年行事

中2学年主任 高野 良弘



ら、マイクを一旦私たち教員に渡してもらって最後の締めをしようと思っていました。「最後の締め」というのは、今回の初学年行事に関わってくれた生徒たちにもう一度スポットを当てて、ありがとう、お疲れ様でしたの気持ちを、みんなで改めて讃えようと呼びかけるものでした。ところが、私たちのそんな「配慮」は全く無用でした。3名の司会者たちは閉会式の終わりに、立案をした生徒会役員会や、審判や得点係など裏方に回って行事を支えたHR委員メンバーらに、学年全体で拍手をと呼びかけたのです。みんなで感謝の意を表することまでをきちんと考えてくれていたのです。中学2年で、初めての学年企画、という状況を考えて、私たちがなりに気を配ろうとしたつもりでしたが、君たちの方が一枚上手でした。この学年の資質の高さを改めて見せつけられた気がして、とても嬉しい気持ちになりました。

3月には相模湖に学年全体で向かい、広いグラウンドで学年行事を企画することになります。行事の内容は、再びHR委員を中心とし、クラスで話し合いながら、楽しい企画を立案してもらおう予定です。君たちの企画力、運営力、そして何よりみんなで楽しみたいという学年全体の溢れんばかりのエネルギーは、必ずや中2生活最後の素晴らしい一日になることと確信しています。



中学3年生

2020.12

世の中の 出来事に対して 自分なりの視点を

～国際関係講演会を経て～



中3学年主任 佐藤 映子

2学期は皆さんにとっていかがでしたか。9月の職業レポート発表会や吉祥祭などでは、皆さんも互いに仲間の良い面など触れることが出来たことでしょうか。リモート体育祭の動画も時折見ているのですが、私は見始めるといつも皆の明るく元気な姿が目が釘付けになり、他の仕事をすっかり忘れて見入ってしまいます。並行して、今学期は進路選択や留学希望など中学卒業以降の自分の進む道について自分の意志を確認した時期でしたね。

そんな中で11月に茨城大学の長田華子先生をお招きして国際交流講演会「中学生に伝えたい服のはなし～990円のジーンズがつくれるのはなぜ?～」が体育館で行われました。たった一本のジーンズを作るのに70人もの手を介している、逆に言えば、70人で作ったものが僅か990円で購入される、その過程や背景に関心を持つことが大事だと知らされます。大雑把な話ですが、2019年のバングラデシュの1人当たりGDP(購買力平価ベース)は約5,000ドル、対する日本は約43,000ドル(*1)と経済指標にも差は大きく表れています。ここまでの流れでは、企業や消費者はまるで「悪者」であるかのような印象があります。確かに問題は存在するのですが、だれかを「悪者」に仕立て上げて批判するだけでは、問題は解決しないように思います。企業にも言い分があるでしょう。商品は人件費の低いところで生産し、物価や人件費の高いところで販売しなければ、競争力や利益を上げ、企業活動を継続させることも難しいでしょう。

質疑応答中に長田先生は「どう行動すべきか。その答えは他の人には決められない。自分で知ろうと努め、自分で考えよう。」というメッセージをいただきました。

吉祥の建学の精神や校是ともつながる考え方です。先ほどGDP per capitaの数値を出しましたが、これは世界で基準を同じくする便利な指標ではあるものの、あくまで概要を伝えてくれるものでしかなく、うかがい知れない歴史的背景、文化的要素、法的な条件、気象条件など日本とは異なるあるいは同じくする特徴があるはずですが。

コロナ禍での国際交流活動にはどうしても制限がつきものですが、それでも不可能というわけではありません。また外国に行くこと=国際交流でもないと思います。身近なものを大切にし、そのルーツに関心を持つだけでも国際的な視野を持つことに繋がります。長田先生はバングラデシュではベンガル語で活動されています。バングラデシュを含む18世紀のベンガル地方については皆さんも少しだけWarren Hastingsの話を通じて学びましたね(バングラデシュ国としては1971年に独立)。学んだこと、読んだこと、身近なことを自分の関心に寄せつけて、自分なりの視点を養っていきましょう。それが将来の皆さんの専門分野選択に役立つこともあるでしょう。

吉祥女子高校1年生の2学期に、文系・理系・芸系の選択があります。大学受験で必要な科目に基づき高2以降で履修する科目を確認し選択します。誤解してはならないのは、学問自体が文・理・芸に三分割に分かれるわけでも、皆さんの学びが高2以降それに限定されるわけでもありません。大学に進学してもそれは同じで、大学ではむしろ学際的な研究(学問を複数に跨いだ研究)が盛んになっており、そのような学部も増えています。もし皆さんが大学に進学しようという意志を持っているなら、学部や学科などの専門分野や文・理・芸と系を選ぶ前に、職業レポート作成・発表会やこの講演会で感じた思いを大事に、今知っておきたいことリストを作ってみては、と提案したいと思います。

いよいよ来学期は、中学総まとめの学期ですね。皆さんらしく元気に充実させていきましょう。ご家族と良いお年を!

(*1: 出所: World Bankデータ

<https://data.worldbank.org/indicator/NY.GDP.PCAP.PP.CD>より)



高校1年生

2021.07

良き習慣を



高1学年主任 岡田 英之

長いようであつという間に過ぎ去ってしまった1学期でしたが、コロナ禍の中でも皆さんがほぼ通常通りの学校生活を送れたことを、とても嬉しく感じています。先日の球技大会では先輩方の厚い壁に阻まれましたが、高2や高3を撃破する場面も見られました。試合会場や教室での応援にも少しお邪魔しましたが、例年通りとはいかなかったものの、皆球技大会の雰囲気を楽しんでいる様子が伝わってきました。

さて、学期末のSDGs講演会では、伊藤菜々美先生から貴重なお話を頂戴しました。とても刺激的な内容で、世界の30カ国以上を巡り、開発途上国での支援活動に取り組んできた先生のご経験は、海外旅行といっても欧米の先進国ばかりで留学経験もなくドメスティックに生きてきた私からすればまさに敬服の外はありませんでした。先生は講演会を通じて、まずは知ることと理解すること、そしてそれを行動につなげることの大切さを教えてくださいました。皆さんもいずれ「世界を変える」ための第一歩として、身近なできるところから「自分を変える」行動を実践してほしいと思います。

自分を変える、という点で私が皆さんにお願いしたいのが、「良い習慣を身につける」ことです。1学期の学年目標を覚えていますか？各クラスの学級委員さんが考えを出し合って決めた目標は「自分に合った生活習慣を身につけよう！」でした。これは私たち教員や保護者に言われたことをするのではなく、自分たち一人一人が意識を持って目標を設定し、その実現に向けて努力しようという意味が込められており、本校の生徒心得である「自主自立（律）」の精神に通ずるところがあると私は思っています。初めは早寝早起きを心掛ける、毎日ラジオ体操をする、一日一回家の手伝いをする、といったことでも良いでしょう。また、世界や日本を取り巻く問題を知るために新聞を読む、日記をつけて自分が思っていること・感じていることを文章で書き残しておく、といっ



た内容も良いでしょう。もちろん、学習の習慣をつけることも重要です。一日英単語を10個覚える、一日数学の課題を10題解く、それだけでもかなりの内容を習得できます。落ち着いて読書に励むことも大切でしょう。腰を据えて書物や文献に向き合う時間を作り、じっくりと思慮に耽る時間を持つことで、良い行動へとつながるきっかけが得られるはずです。

今回も他人の受け売りで恐縮ですが、ここで冷戦末期にイギリスの首相を務め、強力なリーダーシップを発揮して「鉄の女」とも呼ばれたマーガレット＝サッチャーさんの言葉※を紹介しします。

Watch your thoughts, for they become actions. Watch your actions, for they become habits. Watch your habits, for they become your character. Watch your character, for it becomes your destiny.

Margaret Thatcher(1925-2013)

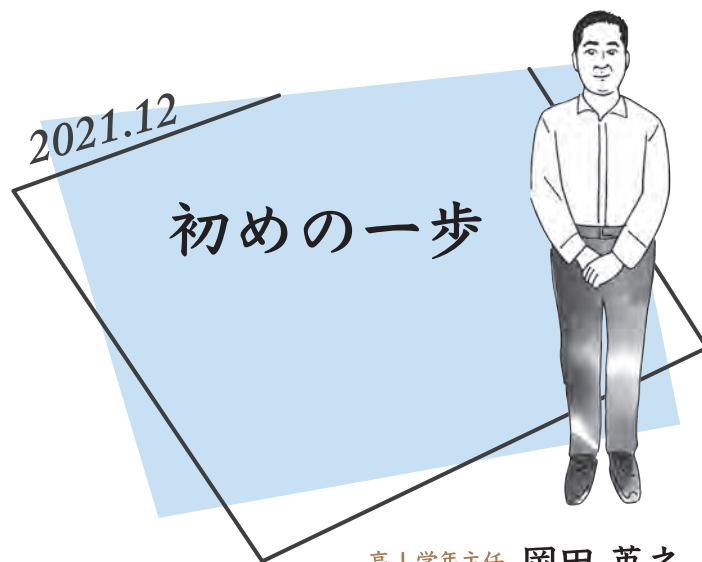
おおよそ意識すれば「考えは言葉になり、言葉は行動になり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる。」という意味です。私なりに解釈するならば、普段の考えや発言、行動が、最終的にはその人の人生を決定づけるということでしょう。時に様々な批判を受けながらも、自らの信念を曲げずに行動したサッチャーさんらしい発言です。ここでは習慣と行動が逆のようにも見えますが、むしろ「人格」や「運命」を習慣の結果と考えると、上に書いた内容とつながってくると思います。皆さんも積極的に行動できる人間になるために、日々の習慣をより良いものにしてほしいと思っています。

明日から43日間の長い夏休みに入ります。部活や講習で学校に来ることもあるかと思いますが、是非充実した時間を過ごしてほしいと願っています。2学期の始業式に、また皆さんの元気な姿にお目にかかることを楽しみにしています。

※一説にはサッチャーさんの父が語った言葉ともされています。

長い2学期が無事終わりました。今学期は吉祥祭に運動会、さらには学年交流会など、行事を多く行うことができましたが、その中で生徒の皆さんが主体的に取り組む姿が見られたことは嬉しい限りでした。吉祥祭では各クラスの発表にお邪魔しましたが、どのクラスもコロナ感染対策を遵守しつつ、工夫を凝らした内容で、内外装や舞台装置はもちろん、企画力や動画作成技術の高さには感嘆させられるばかりでした。運動会は透き通るような晴天の下、4色に分かれた各クラスが躍動する姿に元気をもらうことができました。学年交流会は準備期間が短かったにもかかわらず、運営がとてもスムーズであったことに良い意味で驚かされました。いずれの行事も、吉祥祭責任者や文化部リーダー会や体育部三役、HR運営委員など、リーダーシップを取る人々がいる一方で、皆さん一人一人が自分の役割を果たすフォローシップが発揮されていたように感じます。来年度は吉祥祭も運動会も現高1が主体になります。皆さんの作る行事が今からとても楽しみです。

さて、この2学期は何と言っても進路選択が大きなテーマでした。おそらく、中学受験の時は保護者の方の助言やサポートによるところが大きかったであろう皆さんにとって、今回の系統と科目の選択は、最初の大きな決断だったのではないのでしょうか。私は進路ガイダンスの時に、人生は紆余曲折もあるけれども、いくらでもやり直しは利くと言いました。でも皆さんの多くは、保護者の方はもちろん、担任、学年担当教員、教科担当教員など、多くの人に相談しつつ、自らの志望と適性を照らし合わせながら、悩みに悩んで進路を決めたことと思います。その意味で今回の決断は揺るぎのないものでしょうし、その選択に自信と責任を持ってほしいと思います。一方で、私も公民科の教員として思う部分があります。私は普段、授業で自分の思ったことを率直に話していますが、それは言論の自由や表現の自由が高度に保障された国に生活しているからです。この世界には、私たちが当然のものとして享受し、人類普遍的価値であると感じて疑わない基本的な人権や、そもそも奪われるはずがないと思っている生命や財産でさえ、守られない国や地域があるのも事実です。貧困や格差の問題も相まって、コロナ禍になってそれが顕在化しているように私は感じます。皆さんが何不自由なく学校生活を送ることができ、進路選択の機会を与えられるのは、もちろん物心両面で支えてくださる保護者の方の存在が大きいことは言うまでもありませんが、ふと立ち止まって考えてみれば、男女同権や教育の機会均等（甚だ不完全ではあるけれども少なくとも名目上は）が権利として確立された、とても幸せ



高1 学年主任 岡田 英之

な環境に生きていることの現れと言えるでしょう。今ここに自分が存在している理由を改めて見つめ直した上で、日々の学習や諸活動に取り組んでほしいと思います。私たちにとっては当たり前のことかもしれませんが、その当たり前が当たり前ではない境遇にいる人々のことも想像してみましょう。そうすれば、現在行っているSDGsの活動も、より意義のあるものになるのではないのでしょうか。

ともあれ、皆さんは将来の夢や目標に向けた「初めの一步」を踏み出しました。そのはなむけの言葉というわけではありませんが、今回はアメリカ第32代大統領夫人であり、世界人権宣言の起草にも関わったエレン・アールズヴェルトさんの言葉を紹介します。

One thing life has taught me: If you are interested, you never have to look for new interests. They come to you. When you are genuinely interested in one thing, it will always lead to something else.
Eleanor Roosevelt(1884-1962)

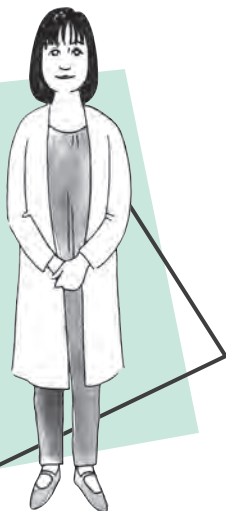
これは「人生が教えてくれたこと。それは、何かに興味を持っていけば、新しい興味を探す必要がないということ。それは向こうからこちらにやってくる。純粹に一つのことに打ち込めば、必ず違う何かにつながっていくものだ。」という意味です。皆さんも進路選択を機に、時間をかけてのめり込むことができるものを大切に、関心の幅を広げていってほしいと心より願っています。今年はラニーニャ現象の影響もあり、厳冬になると言われています。体調管理に気を付けて、楽しく有意義な年末年始をお過ごしください。



高校2年生

2022.03

最後の高2



高2 学年主任 小松 朋子

高2が今日で終了します。お疲れさまでした。中止になった行事などもありましたが、何より高2の皆が中心となって運営する吉祥祭と運動会が、制約はあったものの実施できて、本当に良かったです。やはり、中心になってみないと経験できないことはあるものです。やり切ったときの達成感はその一つでしょう。その感覚が忘れられず、進学してからも学園祭などの実行委員をしているという卒業生もいるくらいです。逆に、計画して進めてきたことが急にできなくなったり、修正せざるを得な

くなったりして、悔しい思いも経験したと思います。諦めず最後までよく頑張りましたね。念願の京都国内研修旅行も一年越しの学年交流会も、皆の協力で実施することができました。正直、少しはらはらしたりもしましたが、本当に楽しかったですよね。

さて、4月からいよいよ高校3年生になります。「受験=つらいこと」と考えがちですが、こちらも皆で、励まし合い、競い合い、それぞれの目標に向かって、前向きに進んでいってほしいと思っています。

学年末になると学級日誌のコメントに「今年最後の日直です」というフレーズが出てきます。4月からは、日に日に「吉祥最後の〇〇」が増えていきます。「吉祥最後の運動会・吉祥祭」もあるでしょうが、「吉祥最後の廊下そうじ」「吉祥最後の黒板消し」「吉祥最後のhealthroom入力」もあります。大きな行事はもちろんですが、日常のちょっとした出来事も“最後”は必ずやります。4月から、受験勉強も日々の学校生活も、どちらも大切に、悔いなくやってほしいと思います。

現状では、卒業までマスク生活は続いてしまいそうで、意思の疎通がしづらい状況です。とっても仲の良い友達なら、たとえ今は話す機会が減っても、卒業後も一生、付き合っていけると思います。でも、「卒業後一度も話していないな…」と後になって気づく友達の方が何倍も多いのです。縁あって同じ学校の同じ学年になっての最後の一年だからこそ、さらにコミュニケーションの領域を広げていきましょう。



高校3年生

2021.07

ノーサイド



高3 学年主任 西塚 純一郎

君たちは「ノーサイド」という言葉を聞いたことがあるだろうか。ラグビーの試合終了を指す言葉で「試合が終われば、敵や味方の区別はなく、同じ仲間である」という意味合いが込められている。ただ、今では「ノーサイド」を試合終了の意味合いで使うのは日本だけのようだ。それでも、ノーサイドの精神はすべてのラグビー選手に浸透している。

—昨年の2019年、4年に一度のラグビーワールドカップが日本で開催された。「4年に一度じゃない、一生に一

度だ」のキャッチコピーとともに、大いに盛り上がったことを覚えている人もいるだろう。高校生のときにラグビーをやっていた僕は、日本代表の試合だけでなく、世界トップクラスの試合が観られることに感動していた（それがまさか病院のベッドの上から観ることになるとは直前まで思わなかったのだが）。

ラグビーでは、試合に勝ったからといって、選手が大はしゃぎすることはない。試合ができるのは相手があってこそ。試合が終われば相手チームと健闘を称えあう、それがノーサイドの精神なのだ。ワールドカップでは、まさにそのようなシーンをたくさん観ることができた。強豪スコットランドが日本に敗れた試合では、敗れたスコットランドの選手たちが、試合終了後に日本代表の選手たちへ花道を作って、日本代表の健闘を称えるシーンがあった。

自分の高校時代を振り返って、いまだに覚えているシーンがある。高3の春の大会で敗れた相手校に、秋の大会で再び対戦し勝利を収めた。秋の大会は3年生の引退がかかっていたので、相手校の3年生を引退に追い込んだ形だ。試合後、ロッカールーム近くで相手校の選手とすれ違ったときに「次も絶対勝ってくれよな！」と声をかけられた。試合に敗れたらそれは悔しい気持ちが出るのが普通だ。ましてや、自分たちはもうこのチームでラグビーをすることができないのだ。しかし、その気持ちをグッとこらえて、試合に勝った相手を称えエールを送る。これがノーサイドの精神なのだろう。

2年ぶりの球技大会。行動制限がかかる中での開催であったが、君たちのこの状況への理解と、この行事を運営する体育部や各クラブの部員（その多くは君たちの後輩であ





るわけだが)へのリスペクトがあって、無事に終わることができた。クラスマッチであるにもかかわらず、自分のクラスの試合の応援に立ち会えないもどかしさを感じた人も多いだろう。しかし、この状況でどうすべきかをしっかり理解して、教室からの応援を続けていた君たちは本当に立派だった。このことも含めて、君たちの行事に懸ける思いを存分に見せてもらった球技大会であったと思う。

そして、下級生には負けられないという、高3としての意地を随所で見ることができた。バレーボールではベスト4を高3で独占した。学年集会で「負けんなよ」と君たちに言ったことを、少し言い過ぎたと思っていたのだが、君たちがプレーでそれを返してくれたのだと、うれしく思った。

選手だけでなく、コーチングの役割を担った仲間、教室で試合の様子を見守る仲間、教室に試合の映像を飛ばす仲間など、試合中には一人ひとりに役割があった。そして場所が離れていても、クラスの一体感を作ることができる君たちの絆の強さを感じられ、窮屈だったこの2年間分の想いを見せつけられた気がしていた。

しかし、トーナメントで行われる試合で、勝って終わることのできるチームはたった1つだ。どのクラスもその1枠を目指し、全力を尽くして試合に臨んだはずだ。しかも相手が同じ高3となれば、なおさら「負けられない」という思いは強かったのではないか。ただ、悲しきかな勝負には決着があり、そこには勝者と敗者がいる。

勝って笑い、負けて泣く。試合後の君たちの感情は、素直に心が表されていたと思う。しかし、感情を昇華さ

せたその先に、ノーサイドの精神が見えた。

そう、クラスという枠組みを越えて、「高3」というチームが自然とできあがっていたのだ。

クラスが負けたからといってそこで終わりではなく、勝ち残った高3へのエールを送る。それはなぜか。「高3」という一つのチームに所属しているという意識が、君たちみんなにあるからではないか。ついさっきまで対戦していた相手クラスのメンバーも、試合が終われば同じチームメイトだ。

君たちには、学校生活の中で多くの時間を共有する、頼りになるチームメイトがいる。またそれは逆に、君たち一人ひとりを心の支えにして目標に向けて頑張っているチームメイトもいる。

僕は一つのチームだ。この球技大会を通して、本当にいいチームになってきたと感じている。互いを思い遣る気持ちの強い、素晴らしいメンバーの揃ったチームだ。君たちにはそんなチームに所属していることを誇りに思い、胸を張ってほしいと思う。

さて、長い夏休みがやってくる。受験だって団体戦だ。

個々に目標は違えども、その志望を達成したいという願いは、君たちすべてに共通する目標だ。だから、団体戦だ。この学年が、同じ志を持った一つのチームなのだ。このチームで、この学年で、目標を達成しよう。

球技大会に負けにくいぐらいの熱い気持ちで、みんなでこの夏を乗り越えよう。乗り越えたその先には、必ずや大きな飛躍が待っている。

高校3年生

2020.03

それぞれの道へ



高3学年主任 塩澤 知美

この数日の暖かさのお陰で一気に春らしさを感じるようになりました。緊急事態宣言延長が発表され感染予防のための緊張感を緩めることはできませんが、それでも公園の木々に目がゆき、桜の開花を楽しみにしている自分に気がきます。

みなさんと過ごした日々は、この先私が教員としての生活を振り返った時に、決して忘れられないものとなるに違いないと確信しています。高1の時に現代文の授業で課した「言葉ノート」に始まり、授業で扱った小説の感想文や評論文の要約、主体性評価のための行動の記録、志望動機書や小論文の添削など、生徒が書いた文章をこれほど読んだのは今までになかったことです。みなさんが何に共感し、喜び悩み、未来に対して希望を抱いているのか。記述指導をする中で、先を歩く大人として自分が問われているような気持ちになったことも度々ありました。私にとっても自分と向き合う濃密な3年間でした。

高校卒業という節目を迎え、明日からはそれぞれの道を歩んでいくことになります。希望と共に、不安もあることでしょう。この1年で世界は大きく変化しました。考えた

くはありませんが、この数年は先が見えない状況が続くのかも知れません。けれども、誰かに必要とされている自分が自覚できる限り、人は絶望しません。だとしたら、誰も分かってくれないと嘆くのではなく、必要とされる自分になれるよう積極的に人と交わっていかありません。どうか、新しい出会いを大切にしてください。傷つくことを恐れず、世界を広げてください。そして、たまには吉祥にも近況報告をしに戻ってきてください。その日を心待ちにしています。

保護者の皆様、今日まで温かく見守っていただき、ありがとうございました。進路選択については様々な葛藤もあったことと想います。先行き不透明な状況が続き、見守ることしかできないもどかしさもお感じになったのではないのでしょうか。新テストや英語外部試験導入への対策など手探りで進めて参りましたが、お嬢様方と共に掛け替えのない3年間を過ごすことができました。この学年に関われたことは大きな幸せでした。ここに、学年スタッフ一同感謝申し上げます。



表紙・挿し絵 香取 亜美

吉祥女子高等学校 芸術コース卒業後、
武蔵野美術大学 工芸工業デザイン科卒業、
イラスト制作会社での勤務を経て、
2016 年よりフリーランスのイラストレーター
として活動。



@ami_katori



吉祥女子中学・高等学校

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 4-12-20

TEL : 0422 (22) 8117 FAX : 0422 (22) 9752

〈ホームページ〉 <https://www.kichijo-joshi.jp/>